鼻咽腔異常感症に対する温熱エアロゾルの効果

新潟大学医学部耳鼻咽喉科学教室
山岸益夫，中村英生，鈴木正治
長谷川　聡，中野雄一

はじめに

日常われわれが外来患者を診察していると，耳鼻咽喉科的に異常所見を認めないにもかかわらず，いろいろな鼻咽腔症状を訴え受診する患者がいる。のどの方は咽喉頭異常感症としていろいろ研究されているが，鼻の方はまだあまり手がつけられていない。われわれの鼻外来を受診する患者の中にも，かなりの数こういった鼻の不定愁訴を持つ患者がおり，その治療にはなかなか苦慮させられることが多い。また患者もいろいろな所を受診して異常なしといわれているにもかかわらず症状がとれないため，かなり神経質になっている場合もある。いままでは精神安定剤，消炎剤，消炎酵素剤，抗アレルギー剤の投与やネビュライザーなどいろいろな治療を試みてきたが，まだこれといった有効な方法はない。そこで今回はこれらの患者に対しサーモライザー® による治療を行い，その効果を判定した。

対象および方法

1. 対 象

1989年12月から1990年8月までに当科鼻外来を受診した患者で鼻咽腔異常感症と診断された患者を対象とした。鼻咽腔異常感症の診断には以下の基準を満たすものとした。すなわち

1) 鼻に関する不定愁訴を持っている。
2) 鼻内所見や内視鏡による後鼻腔の観察所見に異常がない。
3) 鼻X線所見に異常がない。
4) アレルギー諸検査で異常がない。
5) 鼻腔通気度が正常である。
6) 血液検査，肝機能検査，血清鉄などに異常がない。
7) うつ病など精神科的疾患の既往あるいは治療を受けていない。
8) CMI 健康調査表で深町分類の領域Ⅳに入っていない。

などである。

2. 方 法

患者には週2回，1回15分間サーモライザー® を行った。

3. 観察方法および期間

症状の変化はアレルギー日記を参考にして作ったサーモライザー® 用鼻咽腔異常感日記（図1）を患者に渡し，記載してもらった。この日記の記載より効果を判定した。観察期間は症例により4週間から6週間となった。

4. 効果判定

1）症状別効果判定

効果の判定は日記から症状を－～卌の程度に分け，鼻アレルギーの治験時と同様の判定基準で著明改善，改善，軽度改善，不変，悪化の5段階で判定した。

2）全般改善度

症状別効果判定を総合して全般改善度とし，著明改善，改善，軽度改善，不変，悪化の5段階で判定した。

3）患者印象

患者印象は，日記に記載された患者印象より非常によかった，よかった，少しよかった，変わらなかった，悪くなったの5段階で判定した。

症状日記

（サーモライザー用）

氏名

初診日　平成　年　月　日

この日記に日々の症状を記入していただくと医師にも，患者さん自身にも，自分の病気の経過がよくわかり，治療を進めるのに非常に参考になりますから，面倒がらないで記入して，来院の際には必ず持参して下さい。

書き方は次の例を参考にして下さい。

日付，天候		3日　晴			晴，曇，雨など大体を書いて下さい。
時　刻		朝	昼	夜	朝昼夜の区別は大体でよいです。
症状	鼻汁がのどに流れる感じ	＋	－	＋	がまんできない（＋＋＋），少しがまんできる（＋＋） がまんできる（＋），なし（－）
	鼻の奥が乾く感じ	＋	－	＋＋	〃
	鼻の奥がヒリヒリする感じ	＋＋	＋	－	〃
	鼻がつまる感じ	＋	－	－	〃
	その他（　　）				上記以外の症状があったら記入して下さい。
治療	内　服	○		○	薬を服用した時は，○印を記入して下さい。
	サーモライザー	○			治療を受けた時は，○印を記入して下さい。
その他	その他に気付いたこと				そのほか，普段と変わったことがあったら書いて下さい。 たとえば，夜よく眠れなかった，など。
	今週のぐあい				○をつけて下さい。

図1

結　果

1. 症 例

症例は男性6名，女性8名の計14例であり，年齢は32歳から75歳までで，60歳代が中心であった。

2. 症 状

症状としては鼻汁がのどに流れる感じ11例，鼻の奥が乾く感じ9例，鼻の奥がヒリヒリする感じ8例，鼻がつまる感じ7例，鼻がのどに溜る感じ6例などが多く，その他鼻が痛い，耳の奥の圧迫感，鼻の奥の異物感などが1例ずつあった。

3. 症状別改善度

主な症状の改善度は，鼻汁がのどに流れる感じ27.3％，鼻の奥が乾く感じ55.6％，鼻の奥がヒリヒリする感じ75.0％，鼻がつまる感じ57.1％，鼻がのどに溜る感じ66.7％であった（表1）。

4. 全般改善度

症状別改善度を総合した全般改善度は著明改善21.4％，改善28.6％，軽度改善14.3％，不変28.6％，悪化7.1％で改善以上は50.0％であった（表2）。

5. 患者印象

患者の印象は非常によかった14.3％，よかった14.3％，少しよかった35.7％，変わらなかった35.7％で，よかった以上は28.6％であった（表3）。

考　察

従来から局所温熱療法は感冒による鼻炎，鼻アレルギーなどに使用され，その有効性が報告

表1　症状別改善度

症　状（改善率）	症例数	著明改善	改　善	軽度改善	不　変	悪　化
鼻汁がのどに流れる（27.3％）	11	0	0	3	6	2
鼻の奥が乾く（55.6％）	9	2	0	3	3	1
鼻の奥がヒリヒリする（75.0％）	8	4	0	2	1	1
鼻がつまる（57.1％）	7	3	0	1	2	1
鼻がのどに溜る（66.7％）	6	0	0	4	1	1

表2　全般改善度

症例数	著明改善	改　善	軽度改善	不　変	悪　化	改善率（改善以上）
14	3	4	2	4	1	50.0％

表3　患者の印象

症例数	非常によかった	よかった	少しよかった	変わらなかった	よかった以上（％）
14	2	2	5	5	28.6

されてきた[1,2]。われわれはこのような疾患のほかにさらに局所温熱療法の適用範囲を広げることを目的として，今回鼻咽腔異常感症にサーモライザー® を使用してその効果を検討した。その結果本方法がかなり有効であることが判明した。サーモライザー® が鼻咽腔異常感症にどのような機序で効果を現すかについてはいろいろなものが考えられる。ひとつは蒸気による鼻汁の洗い流し作用であろう。これは鼻洗浄と同じような効果を持つものと思われ，これが後鼻漏感や鼻がのどに溜る感じに対する効果を現すものと考えられる。もうひとつは加温，加湿作用であり，鼻がヒリヒリする，鼻が乾くといった症状の改善にはこれが有用であろう。さらに鼻咽腔の自律神経のアンバランスを正常化するといった作用もあるのかもしれない。

いずれにせよこれまで有効な治療法がなかった鼻咽腔異常感症例に対し，局所温熱療法の有用性が示された。今後さらに症例を積み重ね検討を加えたい。

まとめ

鼻咽腔異常感症の患者に対しサーモライザー® を週2回行い，全般改善度50.0％の成績を得た。本治療法はいままでこれといった治療法のなかった鼻の不定愁訴を持つ患者に使用できるものと思われた。

参考文献

1) 大山　勝，他：通年性鼻アレルギー及び感冒時の鼻炎に対する局所温熱療法の臨床的検討 ― 二重盲検比較試験による臨床検討 ―，耳展，31（補2）：133～146，1988.
2) 松永　喬，他：通年性鼻アレルギー及び感冒時の鼻炎に対する鼻局所温熱療法の臨床的検討，耳展，32（補3）：255～265，1989.

討　論

質問；佐藤（神戸常盤短大）

preliminary report というお話で，興味深かったが，今後母集団を増加してゆく上で，non symptomatic（viral origin, atopic, etc）；autonomic, psychosomatic 等の factor をどのように解析されるお考えか。

応答；山岸（新潟大）

一応自律神経失調，神経症等のない症例について今後もまとめていく予定であるが，症例が増えれば，上記のような疾患群についての効果もまとめていきたい。